

『生活科学研究誌』論文執筆要領

1. 原稿登録の形態

- (1) 原稿（本文・要約を含む）は版下原稿を原則とする。
- (2) 版下原稿とは、そのまま製版できるように割り付けした原稿であり、本研究誌論文投稿規程（原則として大阪市立大学生活科学部ホームページに掲載しているテンプレートを使用する）に従い、ワープロソフト等で執筆し、版下用図・表・写真等を貼り込んだもの。

2. 執筆の形式・規格

(1) 書き方種別と頁数

原稿の書き方種別および頁数は以下の通りとする。

書き方種別	本文種別	要旨種別	原稿の全頁数	英・和文要旨 頁数
A	和文	英文と和文の両方	・総説および論文は原則として20頁以内	・英文の場合は200語以内 ・和文の場合は1000字以内
B	英文	英文のみ		

(2) 原稿規格と組み方

- a) 原稿の大きさはA4判とする。この原稿1枚が研究誌の1頁に相当する。
- b) 原稿の余白は上下各30mm、左右各22mmとし、この記入枠外に記入してはならない。なお、第1頁最上欄の「発行年月日」および「通し頁番号」は採用決定後、本編集委員会で貼り付ける。
- c) 1頁は和文の本文相当で2,250字とし、本文のみ2段組とし、それ以外は1段組とする。また、1行あたり25文字で1頁は、45行2段組、段間は2字あきとする(25文字×45行×2段=2,250字)。
- d) 提出原稿の各頁下段余白の中央に頁番号を記入する。

(3) 原稿の構成

原稿の構成は下記例による。

- a) 表題・氏名・所属
(書き方種別Aの場合は和文と英文の両方記載、書き方種別Bの場合は英文のみ記載)
- b) 英文要旨 (Summary)
- c) キーワード (Keywords)
- d) 本文 (本文は図・表・写真を含め、下記を標準とする)
- イ. まえがき (Introduction)
- ロ. 本論 (Body)
- ハ. 結語 (Conclusion)
- ニ. 謝辞 (Acknowledgment)
- ホ. 付録 (Appendix) , 注 (Notes) および引用文献 (References)

なお、研究分野によっては、この形式は特に問わない。ただし、研究の動機や目的、テーマに関する先行研究の到着点をふまえた現在における課題、研究の方法、研究によって得られた新しい知見や理論・結論などが明確に記述されている必要がある。

- e) 和文要旨 (書き方種別Aのみ)

3. 表題・氏名・所属

- (1) 書き方種別Aの場合には、表題・氏名・所属の順に和文と英文の両方を記載する。和文表題を先に、その下行に和文氏名を、さらにその下行に和文所属を記載する。これに続いて、その下行に、英文表題を、その下行に英文氏名を、さらにその下行に英文所属を記載する。
- (2) 書き方種別Bの場合には、表題・氏名・所属の順に英文のみを記載する。まず、英文表題を、その下行に英文氏名を、さらにその下行に英文所属を記載する。
- (3) 表題は原稿の内容を具体的に表現したものとする。「……に関する研究」「……の食品化学的研究」などとはできるだけさける。また、「……第1報」「……第2報」などの表題はできるだけさける。やむを得ない場合は一連の研究である旨を、1ページ目に脚注に示すこととする。
- (4) 総説の場合には、表題の始めに、＜総説＞と書き添える。
- (5) 表題・氏名・所属の取り方は以下の通りとする。
 - a) 表題・氏名・所属は第1行目から概ね15行までの範囲で、最下行に空白行を1行取って割り付ける。
 - b) このうち、和文、英文ともに、表題と氏名との間および氏名と所属との間は1行の空白行を設ける。
 - c) このうち、和文表題・氏名・所属と英文表題・氏名・所属の間は2行の空白行を設ける。
- (6) 表題・氏名・所属の文字は以下の通りとする。

書き方種別Aの場合の書式

	和文	英文
表題（主題）	MS明朝・16ポイント・太文字	Arial・12ポイント
（副題）	MS明朝・14ポイント・太文字	Arial・11ポイント
氏名	MS明朝・14ポイント	Century・10ポイント
所属	MS明朝・10ポイント	Century・10ポイント・イタリック

書き方種別Bの場合の書式

	英文
表題（主題）	Arial・16ポイント
（副題）	Arial・14ポイント
氏名	Century・14ポイント
所属	Century・10ポイント・イタリック

※副題がある場合には、主題の次行に記す。

※英文の表題は、最初の1語のみキャピタルラージとする。

4. 英文要旨

- (1) 英文要旨は、目的・方法・結果・考察を含めて、本文中の内容を理解できるように平易な文で簡潔に書く。
- (2) 原稿の内容の主要な点を200語以内に簡潔に纏め、表題・氏名・所属の後に添える。
- (3) 英文要旨は1段組みとする。英文所属とは1行空白行設ける。
- (4) 英文要旨の表題は**Summary**と記し、文字はArialの10.5ポイントとする。
- (5) 英文要旨の本文は、英文要旨表題の次行からの両端揃えとし、文字はCenturyの10ポイントとする。なお、書き方種別Bの場合には英文要旨に対応する和文要旨を添えて提出すること。ただし、これは英文要旨を査読する際の参考に用い、印刷はされない。

5. キーワード

- (1) キーワードは学術用語集から3～6語（英文キーワード、和文キーワード）を選択する。
- (2) キーワードは左寄せとする。まず、**Keywords:**（Arialの10.5ポイント）と添え書きしてから、和文論文の場合には和文キーワードを記し、改行して英文キーワードを記す。英文論文の場合には英文キーワードのみ記す。
- (3) 和文キーワードの書体はMS明朝とし、文字の大きさは9ポイントとする。
- (4) 英文キーワードの書体はCenturyとし、文字の大きさは9ポイント・イタリックとする。

6. 本文

(1) 本文の書き方

- a) 文章および数式は明瞭に記入する。
- b) 書き方種別Aの場合の書体は、全角文字の場合はMS明朝、半角文字の場合はCenturyとし、文字サイズは9ポイントとする。一方、書き方種別Bの場合の書体はCenturyとし、文字サイズは9ポイントとする。
- c) 章と章との間は1行空白行を取る。
- d) 各段落の最初は、書き方種別Aの場合は1文字分（和文字）の空白を、書き方種別Bの場合は2文字（英文字）とすること。
- e) 和文の文体は口語体とし、原則として常用漢字・新かなづかいを用い、用語はなるべく文部科学省学術用語とする。ただし、普通に用いられる外国語の学術語、物質名などはカタカナとする（例：gaschromatography → ガスクロマトグラフィー）。カタカナにすることにより、字義が不明確になるおそれのあるものはこの限りではない。
- f) ローマ字、アラビア数字、ギリシャ文字、上ツキ、下ツキ、大文字、小文字などまぎらわしいものは特に注意を払うこと。
- g) 単位は原則として国際単位（SI）とする（JISZ8203参照）。
- h) 文章中の元素名、化合物名は原則として文部(科学)省編『学術用語集、科学編』の和名で書く。
（例：HCOOH→ギ酸 又は formic acid, Cl₂ → 塩素 又は chlorine とし, MeOH, -OH などは用いない）。
- i) 数字は原則として算用数字を用いる。（例：Table 1, Fig. 2, 30cm, 4g, 1.26l など）
- j) 生物の学名はイタリックの指示をする。
- k) 図・表・写真の横には、原則として本文は組まない。
- l) 文章中の式は2行にするのはさけ、 $(a+b)/(c+d)$ のように示す。
- m) 新しい行のはじめは1字あけ, ,.。「」() ハイフン などは1コマに書く。数字、英字は1コマに2字とする。
- n) 混同しやすい文字や記号、添字などははっきり区別できるように鉛筆書きで指定する(1とl, 0とo, pとρなど)。
- o) 見出しは左寄せとし、原則として次例のようにする。

	書き方種別A	書き方種別B
大見出し (書体)	I 緒言 (左寄せ・MSゴシック・12ポイント)	INTRODUCTION (中央揃え・Arial・12ポイント)
中見出し (書体)	1. 定量法 (左寄せ・MSゴシック・11ポイント)	Assay (行左寄せ) (中央揃え・Arial・11ポイント)
小見出し (書体)	1) 温度 (左寄せ・MSゴシック・9ポイント)	<i>Temperature</i> (行左寄せ) (中央揃え・Times New Roman ・9ポイント・イタリック)

(2) 数式

- a) 数式には、(1), (2), (3) などと通し番号を付す。

b) 添字は論文の刷上り時に見える大きさとする。

(3) 図・表・写真

a) 原稿作成

- ① 図・表・写真は、直接掲載位置に貼り込む。
- ② 写真の中に直接説明が入る場合は、写真に直接タイプ文字を貼り込む。
- ③ 図・表の文字と記号等は印刷仕上りの大きさ(A4判)で十分に判読できる大きさでなければならない。
- ④ 写真は鮮明なものを用いる。
- ⑤ 図・表・写真と本文の間は1行以上空白行をとる。
- ⑥ 図・表・写真は、原則として2段組みの一方の段の幅に収まるように貼り込む。しかし、その幅に収まらない場合には、その部分のみを1段組みとするか、幅を拡張して2段に渡って貼り込んでもよい。ただし、この場合でも、図・表・写真の横には、原則として本文は組まない。

b) 表題と通し番号

- ① 図・表・写真には、内容を明確に表す表題を必ず付ける。書体は明朝体とし、文字の大きさは9ポイントとする。
- ② 書き方種別Bの場合の図表等の表題は英文で記載すること。

英文表題の書き方は、初語の頭文字のみを大文字とし、その他は小文字を用いる。ピリオドは省略する。

- ③ 表題には、図・表・写真ごとに通し番号を付ける。

この時、章ごとに分けずに、和文表題の場合は図1、図2…、表1、表2、…、写真1、写真2、…、などと記入する。英文表題の場合はFig. 1, Fig. 2, …, Table 1, Table 2, …, Photo. 1, Photo. 2, …, などと記入する。

書体は、和文の場合はMS明朝体、英文の場合はCenturyとし、いずれも文字の大きさは8ポイントとする。

- ④ 表題記入位置は、図・写真の場合その直下、表の場合はその直上とする。

c) その他

- ① 図表を他の著作物から引用する場合には、出典を図表の下に明示し、必要に応じて原著作者または著作権所有者から使用許可を得ておく。

(4) 注および参考文献

a) 注および参考文献は、本文の後にそれぞれを使用順に番号を付け、まとめて掲載する。

b) 注および参考文献の文字の大きさは、8ポイントとする。

c) 注および参考文献の番号は、本文中の引用箇所に肩付き文字^{1), 2), 注1), 注2)}のように明記する。

d) 参考文献の記載方法は以下の通りである。

- ① 論文等の場合「著者名：表題，誌名，巻 (Vol, No.)，掲載頁 (発行年)」の順とする。
- ② 単行本の場合「著 (編) 者名：『書名』，発行所名，引用頁 (発行年)」の順とする。
- ③ 投稿中で掲載決定済みの文献を引用する場合は、文献欄に、著者名，題名，投稿誌名を書き (印刷中) と付記する。
印刷中の文献についてはコピーを同封する。
- ④ 著者名は必ず姓で記す。著者が多い場合には、筆頭者以外は「ほか○名」で省略することもできる。
- ⑤ 欧文の場合には、筆頭者は姓を先に記す。また、連名者は「et al.」で省略することもできる。
- ⑥ 発行年月日は、西暦で記す。

g) 電子文献については「科学技術情報流通技術基準 (SIST) 電子文献参照の書き方」

<http://www.jst.go.jp/SIST/handbook/sist02sup/index.htm> を参照する。

h) 原則として、雑誌名 [欧文の場合はイタリック，略名は日本家政学文献集 (1988) に準ずる]，巻 [ゴチック]，発行年は () で囲む。

①和文原稿の場合

(和文雑誌) 著者名[全員]:論文タイトル, 雑誌名, 巻, 始めの頁-終りの頁 (発行年)

(欧文雑誌) 著者名[全員]:論文タイトル, 雑誌名, 巻, 始めの頁-終りの頁 (発行年)

(単行本) 著者名[全員]:『書名』[欧文の場合はイタリック], 発行社, 発行地, 引用頁 (発行年)

例: 生活花子: 日本人の生活, 家政誌, **46**, 1300-1310 (2001)

Titlelife, A. and Goldman, R.: IncreasedEnergyCostwithMultipleClothingLayers, *J. Appl. Physiol.*, **32** (6), 743-751 (1972)

Vickerstaff, T.: *The Physical Chemistry of Dyeing*, Oliver&BoydCo, NewYork&London, 43 (1954)

②英文原稿の場合の和文雑誌・単行本名はそのままローマ字綴りとし, その他については和文原稿の場合に準ずる。

例: Seikatu, H.:JapaneseLife-styles (inJapanese), *Nihon Kasei Gakkaishi*(J. Home Econ. Jpn.), **46**, 1300-1310 (2001)

③「生活科学部紀要」を文献として引用する時は, 「阪市生科紀」「阪市大生紀要」「Rept. Sci. Living Osaka City Univ.」「Ann. Rept. Sci. Liv. Osaka City Univ.」とする。

h) 注の記載例

注

注1)「大工頭中井家文書」(史学第37 巻第1号~第46 巻第1号)105によると, 紫重右衛門が中井大和守の配下で勘定方を担当したことがわかる。また長香寺寄託中井家文書に「慶長十五年十九年, 駿河御用少々記」と題する留帳があり, その中の「駿河御城大工作料方にて渡手形之覚」は慶長15年11月15日に中井信濃守が作料を請取った旨を紫重右衛門, 村伊右衛門に宛てた覚書の写しで, この両名が中井家の勘定を担当していたことを示している。

7. 和文要旨

(1) 書き方種別Aの場合のみ, 和文要旨を原稿の末尾に付ける。

(2) 本文と和文要旨との間には, 仕切り線を設ける。

(3) 表題, 氏名, 要旨の順に記載する。表題 (MS明朝・16ポイント・太字) を先に, その下行に著者名 (MS明朝・12ポイント) を, さらにその下行に要旨 (MS明朝・9ポイント) を記載する。

(4) 要旨の本文は2,000字以内とする。

(5) 要旨中には図表を挿入せず, 本文図表の参照引用にとどめる。

(6) 要旨は1段組とする。その他の組み方については, 本委員会ホームページに掲載しているテンプレートに従う。

8. その他

(1) 不備な原稿等の返却

論文応募規程および本執筆要領の下記に示す事項を守っていない論文は事務的に返却する。ただし, 投稿料は返却しない。

a) 既発表の論文。

b) 本論文応募規定以外のもの。

c) 原稿の記入枠・行数・字数等の規格と組み方を守っていないもの。

d) 図・表・写真等が版下原稿として作成されていないもの, および不鮮明なもの。

e) 本文・注・参考文献の文字の大きさと種別が適切でないもの, および印字が不鮮明なもの。

f) 提出原稿の部数・添付文書等の不備なもの。

(2) 校正

校正は, 全頁について著者が行う。